

2009年の観察記録

野鳥の月別観察日数		(年間総観察日数 308 日)												計
種	類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1	アオゲラ	21	24	26	26	26	20	1	8	8	18	21	22	221
2	アオジ				1	5	1				5	2		14
3	アカゲラ	24	24	26	26	27	25	26	26	25	26	26	24	305
4	アカハラ											1		1
5	アトリ			16	24									40
6	イカル	2			8	27	1	6	23	3	2			72
7	イスカ		1	1	11	1								14
8	ウグイス				10	17	13	1			4			45
9	ウソ	11	19	11		1						1		43
10	エナガ	20	19	25	15		1	1	1	16	18	17	10	143
11	オオタカ											2		2
12	オオハクチョウ	1	2	17							2	2	7	31
13	オオルリ					1	2	1	1					5
14	オナガ					3			3	1	5	1		13
15	カケス	11	17	9					1	2	11	2		53
16	カシラダカ			2	6						2	9	5	24
17	カッコウ					7	21	1						29
18	カルガモ				2									2
19	カワセミ					1	3	3						7
20	カワラヒワ			10	17	27	25	27	23	8	4			141
21	キウイタダキ	6	5	1	1							1	1	15
22	キジ			1										1
23	キジバト	1	1	14	22	26	25	22	21	22	15	23	8	200
24	キセキレイ				2			4	3	12	2	2		25
25	キビタキ					27	25	27	13	13	2			107
26	キレンジャク			1										1
27	クロジ										2			2
28	クロツグミ					14		7			1			22
29	コガラ	10	13	20	9	9	1			1	4			67
30	コゲラ	24	22	23	26	27	24	26	25	24	23	26	21	291
31	コサメビタキ								6	10	1			17
32	ゴジュウカラ	22	23	26	26	26	23	23	26	23	22	26	23	289
33	コムクドリ			16	23	3								42
34	コルリ				1									1
35	サンコウチョウ							1	3					4
36	サンショウクイ					2	1							3
37	シジュウカラ	24	24	26	26	27	25	26	27	25	27	26	24	307
38	シメ	24	24	26	26	27	22	20	27	25	27	26	24	298
39	ジョウビタキ										2	3		5
40	シロハラ											1		1
41	スズメ	24	24	26	26	27	25	27	27	17	23	26	24	296
42	セグロセキレイ					3								3
43	センダイムシクイ				7	10		9	13	9	1			49
44	ツグミ	22	21	18	1						1	22	19	104
45	トビ	14	10	19	24	23	21	13	11	8	16	22	8	189
46	ノスリ	1								1				2
47	ハイタカ	11	15	15	13	14	1	2	2	2	13	8		96
48	ハクセキレイ			2	1	21	25	13	3	1	1			67
49	ハシブトガラス	24	24	26	26	26	25	27	25	20	27	25	24	299
50	ハシボソガラス					13								13
51	ハチクマ									2				2
52	ハヤブサ	1												1
53	ヒガラ	14	19	23	26	26	25	12	1	6	9	5	10	176
54	ヒバリ			1										1
55	ヒヨドリ	24	24	26	26	27	25	27	26	25	27	26	24	307
56	ヒレンジャク				2									2
57	ヒンズイ					1								1
58	フクロウ				9	1								10
59	ベニマシコ	4	1	1	5									11
60	ホトトギス						1							1
61	マヒワ	7	4	25	25	5								66
62	マミチャジナイ									4				4
63	ミサゴ			1										1
64	ミソサザイ	2									1	2		5
65	ミヤマホオジロ												1	1
66	ムクドリ	2				10	8		5	6	5			36
67	メジロ			2	5	10	12	7	11	13	22	4		86
68	モズ	5							1	3	2	7	8	26
69	ヤブサメ					2	1		2		1			6
70	ヤマガラ	24	24	26	26	25	25	27	26	24	27	26	24	304
71	ヤマドリ			1										1
	種類数	29	25	32	36	40	31	27	30	31	38	32	21	71

観察された野鳥は71種類でした。

このうち通年で観察された野鳥は13種で、餌場に主にヒマワリの種を給餌していることから、スズメ ヒヨドリなどのほかにカラ類のヤマガラ、シジュウカラそしてゴジュウカラ、シメなどがほぼ毎日観察されました。シメは8~9月にかけて子育ての姿が観察されました。なお、餌場の常連であったカワラヒワは原因は不明ですが冬期には観察されませんでした。

キツキ類ではアカゲラ、コゲラのほかアオゲラも夏期以外はほぼ毎日観察されました。また、エナガ、キジバト、ヒガラなども季節的な波があるものの高頻度で観察されました。

夏の野鳥の森の主役であるキビタキは5月初めから全域で声を楽しむことができ、センダイムシクイ、クロツグミ、コムクドリ、コサメビタキなどのほかに数年ぶりにオオルリやサンショウクイなどのさえずりも聞くことができました。クロツグミやオオルリは幼鳥が確認されたことから、野鳥の森で繁殖・子育てしたものと思われる。また、これまでは声だけを聞くことのできたサンコウチョウの幼鳥も初めて確認されました。

冬鳥では、ツグミやカシラダカ、ジョウビタキ、ウソなどのほかに、春先にかけてマヒワやアトリの群れが時々餌場に降りてきました。また、これまでこの付近にはめったに現れなかったイスカが大豊作のドイツトウヒの球果に群れ、時々水場に下りてきて美しい姿を見せてくれました。

野鳥観察の森には大きな池や川がないことから水辺の野鳥が訪れることはまれですが、センター脇の小さな池の魚を狙ってカワセミが飛来し、カルガモのつがいも訪れました。この小さな池や水場は、水場の少ない野鳥の森では森林の野鳥や渡りの途中の野鳥にとっても水浴びや飲み水ができる貴重なオアシスとなっており、普段は見る事ができない野鳥を観察することができました。

野鳥の餌場は猛禽類にとっても獵場であり、ハイタカが頻りに飛来し執拗にシメやスズメなどを対象に狩を行いました。成功の確率はかなり低いようでした。また、森の上空にはトビのほかにノスリやオオタカ、ハヤブサ、ミサゴも観察されましたが、9月には公園内でクロスズメバチの巣を襲ったと思われるハチクマの声を聞くことができました。

哺乳類では、リスがほぼ毎日餌場に現れ、10月には遅い子育てを終えたばかりと見られる母リスと子リスが観察されました。キツネやタヌキ、ノウサギ、アカネズミさらにはイタチが観察されました。なお、例年春の常連だったカモシカとテンは観察されませんでした。